

元気な組合員企業紹介

舞い込む。ここ数ヶ月の間でも4社と取引が成立したが、4社で200店舗を超える。これがすべて大宗に切り替わったというから凄い。これには昨年建てた物流倉庫が大きな武器になったという。元々は社員が商品出荷に毎日深夜12時1時までかかるのを見て、何とかしなくては、と建てたものだが、単に商品の入ったケースを積んでおくのではなく、今日入ったパートさんでも間違いなく品出しできるシステムが組み込まれている。このシステムを寝具に使っているのは日本広しといえど大宗だけ。これ

を見た企業とはほとんど商談成立だとか。月別売上では昨対比140%、来期は20店舗以上が新規オープンし、営業2部では150%の伸びを予想している。しかし急激な伸びは様々な問題を生む。商売は竹の節と同じで、ぐっと伸びて節を作り、力をためてまたぐっと伸びる。これから2年後には中国に物流拠点を構える未来予想図がある。その時には社長の「地方から全国へ発信する」の言葉どおり、寝具で特化した大宗ブランドが全国に並ぶことになるだろう。

事務局だより

INFORMATION

11月

- 3日 第16回ゴルフ大会
【ゴルフ倶楽部 金沢リンクス】
18社 40名参加
優勝 中村直彦氏 働キョー・エイ
準優勝 紺田 威氏 北陸通信工業(株)
第3位 大西憲治氏 大宗(株)

- 4日 理事会
 1. 総務委員会より
 - (1) 組合の中間決算報告
 - (2) まちづくり計画について
 2. 厚生委員会より
 - (1) 経営者研修会結果報告
 - (2) 第16回ゴルフ大会結果報告
 - (3) 労働事情実態調査の実施について
 - (4) 年金移動相談について
 - (5) 第9回スキーツアーについて
 - (6) 労務管理セミナーについて
 3. 組合運営委員会より
 - レストランの運営について
 4. 事業戦略委員会より
 - (1) 「Kimassiデータベース活用成功事例説明会」の開催について
 - (2) 組合創立40周年の組合PR新聞広告について
 5. 理事長より
 - 組合の中長期ビジョンについて
- 6日 新入社員フォローアップ研修

- 11日 「年金移動相談」開催
4社 9名参加

12月

- 3日 理事会
 1. 総務委員会より
 - (1) 新年祭について
 - (2) 新年互礼会について
 - (3) 集団健康診断の実施について
 2. 事務局より
 - (1) 新規組合員加入について
 - (2) 「商人塾」について
 - (3) 中小企業総合事業団の総合診断について
 - (4) 卸卸地制度40周年記念式典表彰について
表彰者は以下の通り。
【中小企業庁 長官表彰】
伊藤淳蔵副理事長
【中小企業総合事業団 理事長表彰】
当組合と関戸孝専務理事
【全国卸商業団地協同組合連合会 会長感謝状】
富木昭光理事長、宗廣満夫相談役理事
 - (5) 商工中金より当組合創立40周年に対して感謝状と記念品が贈与された
- 3日 労務管理セミナー開催
「適格年金と退職金制度について」
クボ マネジメント オフィス 久保和夫氏
16社 18名参加

週刊誌で金沢流通会館の紹介記事掲載!!

（株）ベースボール・マガジン社発行の「週刊プロレス」（1月1日号）にて、金沢流通会館の紹介記事が掲載されました。これは全国の会場を紹介するコーナーで、石川県では産業展示館に続いて2ヶ所目。ここ1年ほどの間に5回の興行が行われ、使っていた団体以外からも問い合わせがあり、今後さらに増える可能性も!? 見逃した方はホームページにも載っているので、一度ご覧下さい。
<http://www.bbm-japan.com/wp/>

金沢市ITビジネス奨励賞を受賞



平成15年12月17日
市長応接室にて

当組合の「Kimassiデータベースシステム」が、金沢市ITビジネス大賞の奨励賞を受賞しました。
12月17日の贈呈式に富木理事長が出席、表彰状と20万円の奨励金をいただきました。
この金沢市ITビジネス大賞は、金沢市が日頃の企業活動にITを積極的に活用して、具体的な成果を挙げている先進的な中小企業、団体などを表彰し、金沢市内の企業の情報化を推進することを目的としており、今年度は当組合のほかにも3社が表彰されました。

編集後記

2004年を迎え上場企業を指標とした数字では景気回復の兆しが見えると盛んに報道されており、ぜひ全国に波及し広がってほしいと思います。
これまでの循環不況ではなく構造不況と言われた中からの回復の兆し、構造を組み立て直した企業がきっと好成績を収めているのではないのでしょうか。
私も迷うことなく引き続き改革・改善を推し進め、早く不況とはオサラバしたいと思います。
A.M

活力ある世界の情報流通発信基地に

KIMASSI

Vol.88
January

KANAZAWA

JANUARY 2004 KANAZAWA TOIYA CENTER QUARTERLY NEWS 金沢問屋センターニュース
URL <http://www.kimassi.or.jp/>

平成16年 理事長年頭挨拶
申年男、大いに語る
平成16年の経済見通し
元気な組合員企業紹介 大宗株式会社



平成16年 理事長 年頭挨拶

協同組合 金沢問屋センター 理事長 富木 昭光



皆様、明けましておめでとうございます。組合員の皆様には、ご健勝にて新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年の出来事を振り返って見ますと、国際関係では、3月に米英軍によるイラク攻撃が開始され、4月には香港で「SARS」の発生、12月にフセイン元大統領の拘束がありました。

国内では、11月に衆議院選挙が行われて民主党が躍進しましたが、与党は安定過半数を確保し、小泉首相が続投となりました。

スポーツでは、なんといっても松井選手のニューヨークヤンキース入りとその活躍ぶりが、我々石川県民に元気を与えてくれました。

ほかに、阪神タイガースの18年ぶりのセリーグ優勝がありました。

昨年のわが国経済は、7月に日経平均株価が1万円台を回復し、最近の経済指標でも景気回復の兆しが見えるようですが、依然としてデフレ圧力は解消されておらず、我々当地の中小企業においては引き続き厳しい情勢が続くものと思われます。このため、政府の真に実効性のある景気対策とデフレ対策の早期実行を強く望むものであります。

さて、当組合の動きであります。山出金沢市長にいろいろお願いを申し上げましたところ、はやばやと桜の植樹をしていただき、また、歩道の再整備・まちづくり協定などにつきましても、前向きにご検討いただいているところです。

懸案でありました空き店舗対策も、石織・

尚和印刷跡地の賃貸先が決まるなど、大変有難いことだと思っております。

組合活性化のために企画しましたイベントとして、「第2回かもん☆といやまつり」と「フリーマーケット」がありましたが、残念ながら台風の影響で、今ひとつ盛り上がり欠けたものとなりました。

今年もさまざまなイベントを企画し、賑やかさの創設に努めたいと思います。

特にお目出たいこととして、7月に前理事長の宗廣相談役理事が「金沢市経済活動賞」をいただいたことは、我々組合員にとりまして大変喜ばしく、誇りに思っております。

ホットニュースとして、12月17日に、当組合の「キマッシデータベースシステム」が、金沢市ITビジネス奨励賞に選定されましたので、贈呈式に行っていました。組合員のIT化の道具としての機能が認められたものであり、これを機により多くの組合員の活用を期待するものであります。

今年の組合運営については、昨年の理事改選で、私が理事長となり、所信表明でも申し上げましたが、私は組合運営のあり方を再構築したいと考えております。私を補佐していただいている副理事長の智慧を借り、組合の中長期ビジョンを策定しました。

内容は

1. 基本理念は、「活力ある世界の流通情報発信基地」として北陸はもとより、日本、世界の地域社会に貢献する。
2. 流通機能の新たな価値を創造し、単なる物流基地でなく、人の集まる情報基

地としての環境作りを目指し、便利な交通アクセスを実現する。

3. 戦略的な経営組織として、組合員の意識改革及び経営革新を実行し、21世紀型の流通を展開する。
4. 組合員企業の支援はもとより、異業種交流を行い、対外的にもコミュニケーション活動を展開し、情報の共有化を図る。
5. 卸売り機能の再構築として、リテールサポート機能の強化と、メーカーと小売業の中間でマーケティングの情報作りを行う機能を強化する。

この組合の中長期ビジョンを実現する具体的戦略として、2つの事業を考えております。

1つは、「商人塾」であります。

「企業は人なり」と申します、当組合に優秀な人材を育み、また、来ていただくために、継続性のある実践教育の場を設けたいと考えております。

2つ目は、協同組合としての団地全体の診断であります。

今、我々の組合がどういう状況に置かれているかを、第三者の目を通して診断を受け、今後の組合運営のあり方を再検討したいと考えております。

この診断は、卸商業団地の窓口である中小企業総合事業団と石川県にお願いする予定であります。幸い、ここ半年ほどをかけた、専務理事と事務局長が組合員の事業所を廻り、直接ご意見・ご要望を聞いておりますので、今後「どのように組合員のお手伝いをし、奉仕できるか」を考え、「この組合員でよかった、頼りがいがある」と云われるようにしたいと思っております。

いずれの事業も、組合員各位のご理解とご協力なしには成功しませんので、絶大な御力添えをお願い申し上げます。

最後に、各社には、元気を出し、知恵を出していただき、ともに実績を上げていくことではありませんか。

組合員の皆様方のご繁栄とご健勝をお祈りいたしまして、私の年頭の挨拶とさせていただきます。



「平成16年の経済見通し」について

北陸銀行 金沢問屋町支店 支店長 中島 博



新年、あけましておめでとうございます。会員の皆様方におかれましては、おだやかに新春をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。また、日頃のご愛顧に対し厚く御礼申し上げます。

さて、昨年の経済を振り返ってみますと、株価も年初はSARSの影響やイラク戦争等の不安定要素の台頭により、一時足踏み状態に陥り、日経平均株価も4月28日にバブル崩壊後の最安値7,603円を付けましたが、その後りそな銀行に対する破綻前の公的資金導入や15年3月期の決算発表で大手企業の業績回復が鮮明になったことから、急速に回復し、9月18日には1年2ヶ月振りに11,000円台を回復いたしました。年末の終値も10,676円と前日比上昇した形となり、平成16年度の日本経済に少し明るい兆しを持ちながら、昨年が終わったように感じました。

しかしその中身は、好調な経済を維持する中国や北米市場への輸出中心の企業と大企業のリストラ効果による回復であって、非製造業や個人消費を売上げの中心とし

た内需関連企業や地方の多くの中小企業にとっては、回復の実感のない1年ではなかったかと思えます。平成16年度は何とか、地元中小企業まで回復感が実感できるような経済になることを切に願っております。

それでは平成16年度の経済はどのような見通しになるのかと云えば、年度の前半は前年度からの回復基調を受けて景気は拡大傾向を維持するものの、後半は民間部門の自律的な復元力と政府政策（年金保険料の廃止や見直し・将来の消費税アップ懸念等）からの逆風との綱引きになる恐れがあります。その結果、景気は年の前半は緩やかに回復するものの、デフレ脱却にはまだ数年を要し、政府の政策によっては後半失速する懸念が大きいのではないかと心配されます。

需要を項目別に見てみますと

個人消費

個人消費が本格的に回復を見せるためには、雇用・所得環境の更なる改善が必要で

●見通しの集計値と政府予想の比較

	2003年度 実績見込み(政府)	2004年度 見通し(政府)	民間予想平均	最大値	最小値
実質GDP	2.0	1.8	2.0	2.8	1.3
名目GDP	0.1	0.5	0.1	2.0	▲0.7
個人消費	0.6	1.1	1.0	2.5	▲0.3
住宅投資	▲0.2	▲0.1	▲0.8	2.1	▲3.6
設備投資	8.7	7.2	6.8	11.7	4.2
公共投資	—	—	▲5.7	▲2.1	▲10.5
財貨・サービス(輸出)	7.2	5.5	7.0	10.6	2.5
財貨・サービス(輸入)	3.9	5.2	6.2	11.9	1.6
経常収支	15.8	16.2	15.5	17.9	12.6
為替相場	113.60	109.20	110.00	122.90	98.00
原油価格	28.5	28.3	27.1	30	25
鉱工業生産指数	2.9	4.1	4.3	7.2	2.2
国内卸売物価指数	▲0.7	▲0.4	▲0.5	0.2	▲1.2
消費者物価指数	▲0.2	▲0.2	▲0.3	0.2	▲0.5
完全失業率	5.2	5.1	5.1	5.5	4.9

すが、企業経営の先行きを考えると、あまり大きな期待は持てないと思われ。そのような状況下、大きなトレンドの中では昨年が最悪期であったと思われ、消費性向の高い高齢者世帯の割合が増加していること、物価の下落により金融資産の実質価値が高まり、資産保有高の相対的に多い高齢者世帯で消費が堅調であること、デジタル家電分野での新商品投入が我慢を続けていた消費者の心理をくすぐり、耐久消費財の消費を牽引していること。

等の視点から、今後も当面は物価の低落傾向が続くも、個人消費は昨年来の持ち直しつつある状況を継続し、改善して行くのではないかと予想されます。しかし、年度の後半からは上記の各種負担感の増加から、回復傾向に水を差し、地方経済の特に非製造業の回復と個人消費に火がつく前に、落ち込みするのではないかと懸念も拭い去れないと予想されます。

設備投資

デフレ脱出には依然時間を要するものの、新年度入り後も経営体質の改善と輸出の増勢維持に牽引されて、企業の設備投資の回復傾向が続くと予想されます。ただし、設備投資行動は質重視にシフトし、生産性向上のためのIT投資や高収益・高性能設備への絞り込みが続くも、成長分野と不振分野の二極化が一段と鮮明になると見込まれます。こうした二極化が解消され、設備投資が本格的な回復に向かうためには、製造業での雇用所得増加→個人消費増加→非製造業での設備投資拡大といったメカニズムが動くことが必要です。

しかし、企業サイドから見る限り、雇用過剰感が根強く残っていることから、人件費抑制の動きが当面持続し、雇用者所得の大幅回復は期待薄な状況にあります。このため、非製造業での設備投資の本格回復は期待薄で、製造業好調・非製造業不振というパターンが持続する見通しが予想されます。更に、中小企業分野では過剰債務の解



消が遅れており、大企業・中堅企業と中小企業との二極化状態も当面解消が期待できない状況にあります。この面でも、地方で一部大企業の設備投資の動きは見られるものの、地方全体とすれば、本格的に設備投資が活発になる状況には至らないと予想されます。

景気回復への大きな牽引力である個人消費と設備投資を中心に、平成16年度の経済見通しを述べてきましたが、大方の経済アナリストの予想を見ても、今年の見通しは、前半は昨年来の堅調な海外環境やリストラに拠る大企業の高収益を背景に回復基調が続くが、後半は不透明であるとの予想が大半です。

平成15年度の日本経済が、民間の自立回復で漸くここまで復調してきたものが、政府の財政再建へのあせりとも思える政策

や、官の抵抗で改革が進まない現状、および世界情勢の不透明感から、平成16年度の経済見通しは非常に予想しづらい状況にあると思います。

しかしながら、私は今年の経済見通しがどうかという事よりも、勿論経済見通しを抜きにして経営は語れませんが、自分自身なり自社が今後どう在るべきか、また如何に戦っていくべきかを考える事の方がより重要だと思えます。

当然、夜も眠れないほど毎日どうやって経営していけばよいか、を考えておられる経営者の皆様にこのような事を言うのは不遜であるとは思いますが、「売上高を追うのか、利益率を高めるのか。どうやって顧客ニーズを発掘するのか、変化に対応していくのか。社内体制の整備・社員のモチベーションをどう高めるか。どのような不況になろうとも、先を読み・継続して利益を

上げ続けていく方策は無いものか」。一つのヒントは昨年暮に発売された本で、セブン・イレブン会長である鈴木敏文氏の著書である「商売の原点」・「商売の創造」（講談社発行）にあるのではないかと考えております。現場で実際の経営に携わる同氏の、常に「仮説と検証」を繰り返し、移り変わる消費者のニーズを追って営業に生かそうとする姿勢こそ経営の原点だと思います。小売と卸の違いはあるかもしれませんが、本質は同じだと思われしますので、一読をお勧めします。

最後になりますが、私ども地域の金融機関としても、地域活性化と経済復活のために今年が最大の正念場と考え、皆様の要望にお応えすべく最善を尽くし、精一杯努力して行く所存です。

皆様方の益々のご発展とご健勝を心からお祈り申し上げます。

申年男、大いに語る

「スローフードを始めよう」



アサヒ冷機 専務
東藤 幸介

皆様、明けましておめでとうございます。

私も今年で4回目の年男になるのですが、近頃一年が直ぐに過ぎ去ってしまう気がします。日々時間に追われている時に、「スローフード」という言葉に興味を持ちました。最初スローフードとはゆっくり食事するぐらいにしか思っていなかったのですが、調べてみると17年ほど前にイタリアの小さな村から始まった活動のようです。その内容ですが、ただ時間をかけて食事をするのではなく、普段漠然と食べているものを今

一度じっくり見つめなおし、その素材や料理について考えたり一緒に食事をする人との会話やコミュニケーションを大切に、という考え方なのです。その考え方が世界中で広がり始め、日本では無くなりつつある郷土料理や質の高い食品を守り、その素材を提供する生産者を守ってゆく。そして子供も含めた消費者全体に本当の味を伝えていく運動になっています。

今の日本を見渡すと「ファーストフード」といわれる物がどこにでもあり、若者や子供達に物凄い量が消費されています。私も十代・二十代の頃はファーストフードがカッコ良く映り、昔からある郷土料理などに代表されるスローフードは好んで食べていませんでした。しかし、昔から伝わる質の高い食品や素材を食べてみると、本当に大事に育て子供や若い人達に伝え守らなく

てはと思います。

最近の健康ブームで納豆や能登のいしるなど発酵食品が見直されています。独特の匂いなどはありますがとても良い事ではないでしょうか。また、私は仕事の関係で酒造会社に行くことがあるのですが、酒造りに携わっている方の話を聞けば聞くほど、奥が深い素晴らしい作品だと実感してしまいます。個人的にはワイン以上の素晴らしいお酒だと思えます。

最後に「スローフード」の流れがもっと広がることにより、地域の特産品や農業・水産業、地域産業等の活性化につながり、そして現代社会に少し欠けている人と人とのコミュニケーションが円滑になれば、穏やかで暮らし良い社会になるのでは。私も今まで以上に「スローフード」を取り入れた生活を送ってみたいと思います。

申年男、大いに語る

食の安全性について



㈱マルシン 商品部長
丸岡 信之

新年明けましておめでとうございます。

昭和43年生まれの申年で、今年36歳を迎えます。

昨年を振り返りますと、イラク戦争に始まり、SARS、総選挙、長引くデフレなどの話題が世間を騒がせたかと思えます。

食品業界では、3年前の雪印問題に始まり、BSE、鳥インフルエンザ、無許可香料の使用、産地偽装など、ここ数年ニュースが絶えず大変な思いをいたしました。

私はこれらのニュースには、共通したキーワードがあるように思います。それは「企業倫理が問われている」という点です。

商業主義に走り、利益追求のみにとらわ

れた企業の悪事が露呈したということでしょう。マスコミはこぞって記事を連ね、事実を誇張し消費者の不安を煽りました。結果、市場は混乱を招き、不正を行なった企業は社会的に制裁を受けました。もちろん不正は正されるべきですが、近年のマスコミこそ商業主義に走り本来マスコミのあるべき姿を見失っている気がいたします。

マスコミの使命は事実の報道であって、事実が誇張されたり歪曲されたりしては決してならないと思います。また、我々視聴者も報道を鵞呑みにすることなく正しい知識を身につけるよう心掛けなければならないと思います。

ただ「食の安全性への意識」については少々疑問に感じることがあります。国産信仰、無添加主義が世間に認知されていますが、事実はどうでしょう。例えば、一昨年中国野菜に残留農薬が検出され大きな騒ぎとなりましたが、国産のモノなら本当に安全なのでしょうか？

私はそうではないと思います。実際、とある生協で産地偽装が行なわれていたことは耳に新しいことすし、それが本当に国産の商品でも農薬が使用されていないなんてことはないでしょう。一昨年中国へ工場視察に行った折、現地の工場の人に「農薬を使っていない野菜なんて無い」と聞きました。全ての野菜には農薬は使用されておりますが、基準値を超えていないかどうか問題なのです。

結論として、メーカー・生産者・流通業者・小売業者が今一度、襟を正し真面目な仕事を行なうことが大前提であり、また消費者もマスコミに踊らされることなく本質を見極めることが必要であると思えます。

業界関係者の一人として、今年は物流と食品についての勉強をやり直し、誠実な仕事を進めていくつもりです。今後ともご指導くださいますようお願いいたします。

本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

元気な組合員企業紹介

卸からメーカーへの転身、寝具の特化で日本を席捲

大宗株式会社 大西 憲治社長



加賀友禅を始め呉服繊維卸として平成元年問屋センターに仲間入りし、大きな変化を遂げてきた大宗。その変革は、メーカーとして生き残ることを決意した日から始まった。染色

工場などをグループ企業として立ち上げ、工房には加賀友禅作家が常駐し、自社オリジナル商品の製造を可能にした。また、あまり知られていないが宝飾は、中間問屋を通さず世界の宝石の集散地といわれるバンコクへ直接買い付けに行く。さらに、飛躍的な伸びをみせたのは、今から11年前にスタートさせた営業2部の力が大きい。

そこでは寝具の実需のみに絞り込み、その頃から全国の大型化してきたホームセンターやドラッグストアなどを取引先として、その拡大と歩を一にして伸びてきた。といっても毎年赤字続きで、ようやく花開いてきたのがここ2年くらいのことだという。ここでいう実需とは、布団なら2,980

円、カバーなら980円くらいの、贅沢品ではなく毎日の暮らしに欠かせない必需品を指す。現に毛布なら、1,980円から1,000円刻みで並ぶ中で、売上の8割以上が1,980円、2,980円のもの占めるという。

寝具は隙間産業である。かさばる割に売上は少ない、だからこそ店舗展開、大規模店舗を持つホームセンターやドラッグストアに的を絞る。これだけは絶対負けられないものを特化させ、ロットで勝負する。自社ブランドの商品を中国でつくり、4年前からは商社など一切通さずコンテナを金沢港へ荷揚げしている。これができるのも人件費、地代、工賃などすべてが安い地方、田舎だからこそだ。面白いのは商談で「お客さんとは個々の商品の高い安いの話はしない。その代わり、ゴンドラ150本ならその春夏秋冬1年間の売場展開を提案し、全部任せよう。今までのところは全部やめてください、きれいな売場はできませんからとお話し

して、理解いただけるところだけお引き受けするんです」と明快だ。

大宗はスーパーセンターの草分けであるプラントと共に歩んできたともいえる。これからスーパーセンターを始めようという人は必ずプラントを見学に行く。そこで大宗ブランドを見つけ、お客の方から依頼が

卓球石川に強力中国人選手

金沢市立の卓球部で今年17年目を迎える石川卓球部。大西社長は「石川の卓球部は、全国レベルの選手を輩出している」と誇りに思っている。その中でも、今年17歳で、石川卓球部の主力選手として活躍しているのが、陳晨（チンチェン）選手だ。陳選手は、中国の卓球界で活躍している選手で、石川卓球部の練習生として、今年17歳で、石川卓球部の主力選手として活躍している。陳選手は、中国の卓球界で活躍している選手で、石川卓球部の練習生として、今年17歳で、石川卓球部の主力選手として活躍している。

陳晨（学生選手） 今春大宗入り

初挑戦 日本リーグ（2部）に期待

遊学館コーチ就任

高校総体でも栄冠

▲（平成16年1月8日付 北國新聞）今春から日本リーグ入りし、全国レベルの大宗卓球部では中国人選手を迎え、卓球と業務拡大のための日中の架け橋として期待している。